

おはなしトレイン

なつのワクワク号

学年ごとに おすすめの本 を 紹介 します。 小さなスイカのマーク は 読みやすいおはなし、大きなスイカのマーク は すこし長めのおはなし です。夏休みにぜひチャレンジしてください。

1・2年生
イチオシ!



イチノロブ・ガンバートル/文
パーサンスレン・ポロルマー/絵
津田紀子/訳
福音館書店

『トヤのひっこし』

モンゴルの草原にくらすトヤたちのひっこしは、「ゲル」という家もたたんではこびます。車やでんしゃがないので、ラクダにもつをつみ馬にのって、広いさばくや山をこえていくのです。山や草原にすんでいるどうぶつや、ほかのかぞくのようにもよく見えてみましょう。みなさんの知らないモンゴルの生活が見つかるかもしれませんよ。

3・4年生
イチオシ!



ほそじまさよ/写真
いしちえいしん/文
いわさき書店

『かき氷 天然氷をつくる』

冷凍庫でいつでも作ることができる氷ですが、昔は冬にこおらせた天然氷を夏まで保存して使っていました。その天然氷を今も作っている家族のおはなしです。自然のようすをみながら工夫をし、ていねいに氷を作る仕事は親子代々伝えられていきます。その天然氷を使って作られるかき氷はとともおいしく、食べた後はあたたかい気持ちになるのです。

5・6年生
イチオシ!



エリザベス・レアード/作
いしたにひさこ/訳
石谷尚子/訳
評論社

『世界一のランナー』

ソロモンは、エチオピアの田舎に住む11歳の男の子。学校に行くのも毎日8キロの道を走って往復しています。そして密かに世界一のランナーになりたいと思っています。そんなある日、ある事件がきっかけでおじいちゃんの過去が明らかになります。物語には実在の選手も登場します。この夏のオリンピックでメダルを手にするのは、どこの国のランナーでしょう？



くつきしろう 著
朽木祥/作
ささめやゆき/絵
こうせいしゅつほんしゃ
俊成出版社

『あひるの手紙』

あなたは、だれかから手紙をもらったことがありますか？ ある日
ほんまち小学校にふしぎな手紙がとどきました。ふうとうのおも
てには「いちねんせいのみんなへ」、うらには「たなかけんいちよ
り」、びんせんには「あひる」としかかいてありません。さて、い
ちねんせいのみんなは、どんなおへんじをかくのでしょうか？



ドリス・バーン/文・絵
ちほしげきやく
千葉茂樹/訳
いわなみしよてん
岩波書店

『アンドルーのひみつきち』

アンドルーはものづくりが大好きです。家の中にヘリコプターやメ
リーゴーランドをつくったのですが、かそくにじゃまだといわれ、
「じぶんだけの、ひみつきちをつくるぞ」ときめました。はらっぱ
にひみつきちをつくったら、自分のもつってほしいと反だちがた
くさんやってきて…。絵にもちゅうもくです。おどろくような「し
かけ」がたくさんのはいていますよ。



アストリッド・リンドグレーン/著
いしいとしこやく
石井登志子/訳
いわなみしよてん
岩波書店

『エーミルはいたずらっ子』

スウェーデンのいなかの村でくらす男の子エーミルは、見た目は
かわいらしくておりこうそうに見えます。ところがどっこい、とん
でもないいたずらっ子なのです。スープばちにあたまをつっこんだ
り、妹をはしらにつるしたり…いつもすっとんきょうなごたごた
をおこしてしまいます。思わずわらってしまうエーミルのお話が
3つのっています。



まつおかたついで まく
松岡達英/作
ふくinkanしよてん
福音館書店

『よるになると』

みぢかな生きものたちのよるのすごしかたを、知っていますか？
こうえんやくさはら、川などで見る生きものたちのひるとよるのよ
うすが、じゅんぱんにえがかれた絵本です。いのちをつなぐために、
いっしょうけんめいにえさをとるようすなど、まるで本ものよう
な細かい絵は、何度見てもあきません。本当に夜のかんさつに行っ
た気分になれそうです。





オリバー・バターワース/作
まつおかきょうこ
松岡享子/訳
いわなみしよてん
岩波書店



『大きなたまご』

ある朝、ネイトの家のめんどりが、大きなたまごを生みました。たまごのまわりは38センチ、重さは1.5キロ。たまごのからは何かの革のようです。ネイトが根気強く世話をすると、中から出てきたのは…信じられない生きものでした！

これだけでもわくわくするお話ですが、その後のネイトとその生きものとの生活は、うらやましくなるほどステキです。

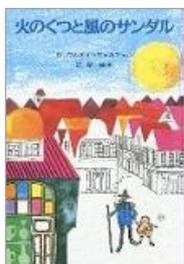


岡野かおる子/作
うえし
上路ナオ子/絵
りろんしゃ
理論社



『くろねこのどん』

くろねこのどんは、えみちゃんの家のねこではありませんが、えみちゃんがさびしい時や、こわい時にやってきては、ジャングルごっこや、おままごとなどをしていっしょに遊ぶのらねこです。ちょっとまほうも使えるかもしれません。なぜなら話ができるし、算数もできるし、えみちゃんを雲に乗せることもできるのです。どんとえみちゃんの楽しくてふしぎなお話です。



ウルズラ・ウェルフェル/作
せきくすお
関楠生/訳
どうわかんしゅつぱん
童話館出版



『火のくつと風のサンダル』

友だちにからかわれてばかりのチムは、自分のことがいやになっていました。そんな時、チムは両親からたん生日に、新しいくつと「火のくつ」という新しい名前をもらいました。そして、夏休みにお父さんと4週間の旅に出ました。楽しいことばかりではない旅でしたが、チムがつらいときはいつも、お父さんが世界にたったひとつしかないすてきな話をして元気づけてくれます。



みやわかしゅんそう
宮脇俊三/文
くろいわやすし
黒岩保美/絵
ふつかん
復刊ドットコム



『御殿場線ものがたり』

東海道線はむかし、箱根山を越えていく御殿場周りで東京～大阪間を結んでいました。蒸気機関車が苦手な急勾配をのぼらねばならないルートに、なぜ鉄道をしいたのでしょうか？急な上り坂を走るための苦労や工夫など、いろいろな秘密が迫力のある絵で描かれています。今も現役の御殿場線、鉄道好きさんは必見！

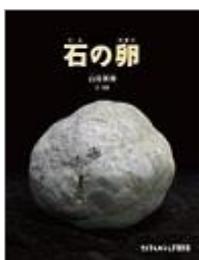




かわは さちこ ちよ
柏葉幸子/著
さいとうゆきこ/絵
こうだんしゃ
講談社

『岬のマヨイガ』

両親を亡くした萌花と夫から逃げてきたゆりえは、3月11日、たどり着いた小さな駅のプラットフォームで、町が大津波にさらわれてしまうところを見つめていました。帰る所のない2人は、避難所で出会った老婆キワに助けられ、3人で共同生活を始めます。岩手県出身の作者が東日本大震災に遠野物語を織り交ぜ描いた、温かくも切ないファンタジー。



やまだ ひではる ぶん しゃしん
山田英春/文・写真
ふくいんかんしよてん
福音館書店

『石の卵』

表紙のまるくてごつごつした石、これが石の卵です。でも、石の卵って何なんだろう？ それは石の卵をまっぴたつに切るとわかります。中には「黄色に輝く石が爆発をおこしたような感じ」のものが入っています。外側とは似ても似つかない美しい結晶は、長い年月をかけて海の生物や溶岩が変化したもの。美しい写真がいっぱいの、鉱物好きにはたまらない1冊です。



よねざわてつし かつた
米澤鐵志/語り
ゆいりょう子/文
しょうがくかん
小学館

『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』

11歳の少年が生きぬいたヒロシマ

1945年8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下されました。爆心地からたった750mの満員電車の中で被爆し、奇跡的に生き残った米澤鐵志さんは、当時11歳だった目で見、体験した事を語り部として多くの人に話してこられました。米澤さんのその語りをまとめたのがこの本です。つらい出来事ですが、本当の事を知ることが大切な始めの一歩なのかもしれません。



エーリヒ・ケストナー/作
いけだ かよこ かく
池田香代子/訳
いわなみしよてん
岩波書店

『ふたりのロツテ』

ビュール湖のほとりにある、女の子達が夏休みを過ごす子どもの家。そこで9歳のルイーゼは、バスから降りてきた自分そっくりのロツテに出会います。最初は反発していた2人ですが、お互いの誕生日が同じ、生まれた場所も同じとわかり…。その謎が解けた2人は、思いもよらない大胆な作戦に出ます。長く世界中で愛読されているお話です。

